

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日

令和2年12月1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100421		
法人名	JTS株式会社		
事業所名	グループホーム樹		
所在地	広島県広島市安佐北区深川1丁目42-23 (電話) (082) 842-1500		
自己評価作成日	令和2年11月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490100421-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490100421-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和2年11月27日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

施設は、田んぼや畑、山々の様子で四季折々の背景が楽しめる自然に囲まれた住宅街に立地しています。近隣にはスーパーもあり、散歩を兼ねて買い物に行かれる機会もあり、楽しみの1つになっています。毎日の生活の中での役割、行事・活動での料理作りや花を育てたり、皆さんで分担しながら助け合い積極的に取り組み、生きがい・やりがいを感じて頂いています。現在はコロナウィルス感染拡大防止により、面会・外出の自粛をしております。面会などご家族様との関りを切らないために、リモートでの面会を開始しました。地域行事への参加はできない状況ではありますがご利用者様、ご家族様、地域の方、職員、皆さんで協力し支え合い、笑顔溢れる地域に密着し開かれた施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

地域行事（盆踊り、とんど祭りなど）が盛んな地域であり、職員は準備段階から参加し、日常的に利用者との交流が図られている。職員中心でなく、利用者中心で物事を常に考え、今までの生活習慣、普段の生活が継続できるように、利用者の笑顔が見たい思いで、職員間で話し合いを重ねて、日々のケアに精進している。コロナ禍で外出自粛の中、事業所内で出来る行事など職員の提案で花火大会、かき氷、ドライブなど行っている。面会自粛がある中、毎月担当職員による手紙や写真など近況報告が家族にとって何よりの安心に繋がっている。コロナが終息すれば、地域交流をより深め、子どもなど地域の方が気兼ねなくホームに訪れるように、次世代交流、支え合いの地域づくりを目指したいと考えている。

自己評価	外部評価	項目( 桜 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝礼で理念の唱和することで、動機付けを行っている。また、事業所会議を通じて理念についての自己への振り返りを図るとともに、事業所全体の意識づけへとつなげている。	会社の理念と運営方針を基に実践する中で、4年前に職員全員で話し合いを重ね、見直した経緯がある。毎日の朝礼時に理念を唱和し、意識統一をしている。月1回の事業所会議を通して、理念と照らし合わせながら、日々実践している。	年間目標を掲げ、介護実践に取り組むことを期待します。今後は、全職員で年間目標を作り上げ、実行・検証を通して、上半期・下半期と理念に沿ったケアができていないか振り返りを行うことを望みます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ご利用者様との散歩の際や、洗濯物干しなどで地域の方々とお会いさせていただく際には、職員より積極的にご挨拶させていただいている。コロナウィルスにより、地域への参加は難しい状況が続いている。	ホームの納涼祭、餅つきでは多くの地域の方の参加がある。買い物や散歩、地元行事の盆踊り、とんど祭り、町内清掃などに参加していたが、コロナ禍で地域交流が少なくなった状況が続いている。今年度から新しい町内会長に代わり、今後は町内会長を通しての交流を深めて行く考えである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所内で開催する行事に、地域の方々にご参加いただき、ご利用者様と触れ合うことで認知症への理解を図っていきたくと考えているが、コロナにより現状として実施できていない。また、日頃の挨拶なども通じて、ご利用者様と触れ合っていたく事で、自然に認知症への理解へとつながっていると考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に2か月に1回、運営推進会議を開催しているが、コロナにより施設などの会議には、至っておらず。文章での会議となり、事業所での取り組みや外部から事業所への課題についてもお話をいただけ、事業所会議等で職員にも周知している。	家族参加が代表者のみのこともあり、年2回の家族会を実施し、意見を聞く機会を設けている。家族不参加者への対応として、議事録送付をしている。活動報告、利用状況など定期的に開催されていたが、コロナ禍では議事録を送付し、文書を通しての意見交換の開催になっている。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターや居宅支援センターの方々と日頃からコミュニケーションを図り、ご利用者様や新規ご利用者様への働きかけなどをご相談させていただいている。また、介護サービスへの疑問や不明への確認や、報告をさせていただいている。	市担当者と相談・手続きなどで連携し、認定調査など協力関係を築いている。運営推進会議には、市担当者や地域包括支援センター職員も参加している。コロナ禍でもあり、市担当者もホーム訪問を見合わせている状況から、市窓口に出向き事業所の取り組み状況を報告している。	

自己評価	外部評価	項目( 桜 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内の勉強会を通じ、定期的に身体拘束について職員間で意識統一と意識付けを行っている。日頃の業務中に不適切なケアになっていないかなど、フロアの主任が中心となりフロア会議などを通じて、振り返りを図っている。	年1～2回の定期的な研修には、職員が講師となって研修をしている。その適正化のための指針や3カ月毎の身体拘束委員会でのケース検討など職員間で更に意識を高めている。利用者が外出したい時は、職員は一緒に付き添い対応している。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内の勉強会を通じ、定期的に虐待の防止について職員間で意識統一と意識付けを行っている。日頃の業務中に不適切なケアになっていないかなど、主任・副主任が中心となり振り返り、管理者は職員の思いにも寄り添えるように、日頃からコミュニケーションを図り、個別面談をおこない体制づくりに努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	各研修への参加などをこれからも行っていくとともに、必要に応じて各関係者とも連携を図り、ご利用者様やご家族様などからもご質問や疑問の相談に応じられるように努めている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書を基にご説明等を行い、ご不明な点や疑問にも、気軽にご相談いただける様に、分かりやすい言葉を選び、環境づくりを行っている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者様からは、日々の生活の中からお話がいただけるように、言葉かけをさせていただき、ご家族様には、ご面会時の言葉かけや家族会へのご参加時に思いをいただいている。いただいた内容は、職員間で共有しご希望や要望に対して、対応できる範囲はどこまでかを話し合い対応している。	コロナ禍で面会自粛の中、職員の提案で広報誌から担当職員による毎月手紙や写真などで日頃の様子や状況を伝え、家族への安心に繋げている。年2回、ご家族の思いを話し合う会の家族会を開催し、家族の貴重な意見を伺い改善策に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目( 桜 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	事業所会議やフロア会議、日々の言葉かけを通じて、意見や思いを受け入れられる体制づくりを行っている。主任・副主任へ相談し、管理者へ相談があがることもある。不安を抱える職員に対しては適宜面談を行い、全職員に対しては、年に1回は面談日を設け、働きやすい環境づくりに努めている。	職員が働きやすい職場づくりが利用者の生活を豊かにするという会社方針により、各職員が自発的に提案を出し合いながら利用者日々のケアを実践している。管理者が2年前に着任後に両ユニットに配置され、主任、副主任、リーダー、サブリーダー制のピラミッド型へ移行された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者や主任・副主任、職員から職員個々の努力や実績の報告などを聴き、また自己評価などとすり合わせながら、日々の業務の中での職員状況を把握し、日々のコミュニケーションや個別面談を通じて、働きやすい環境づくりが整うよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所外部への研修を職員個々の状況に合わせ受講し、スキルアップにつなげている。研修の情報を回覧などで活用して職員個々でも参加できる研修への働きかけを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	各研修や勉強会への参加をすることにより、事業所外からの学びを基に、事業所会議やフロア会議などで職員間で共有し、サービスへの活用を図り、より質が高められるように努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメントシートをご本人様よりいただくお話をもとに整理しながら、またご本人様からの思いを引出し、要望や不安を解決でき不安なく生活していただけるように、務めている。		

自己評価	外部評価	項目( 桜 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様には、ご利用を開始する前に事業所の見学をしていただき日々の様子を感じていただき、施設見学の後には、ご相談を受け現時点での不安やお困りごとなどを伺っている。サービスを開始する際には、改めてのご要望や不安などをお伺いし、より安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族様には、ご利用を開始する前に施設見学をしていただいた後、お話を聴く場を設けることにより、現時点での支援について把握します。サービス開始時点では改めてご要望や不安などをお伺いし、より安心していただけるようなサービス内容になるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活の中で、ご本人様が出来る事をお話し、協力しながら共助を築いていけるように努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご面会時や、月一度の近況報告によりご本人様がここでの生活を安心して穏やかに過ごしていただけるように、ご家族様にも協力をいただき、支援していけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所前に通っておられた場所へ外出されたり、地域の馴染みの場所への参加を継続していけるように努めていきたいが、コロナにより積極的にはできないのが現状となっている。	生活歴を把握し、これまでの生活や大切にしてきた繋がりを尊重し、知人の面会など旧知の関係性を紡いでいる。家族と相談し、昔市内でよく出掛けていたデパートや景色の良い公園を散策し、個別対応した取り組みがある。近くのスーパーへ買い物に行くことも馴染みの場所となっている。	

自己評価	外部評価	項目( 桜 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	顔馴染みの方々が外出の際にお部屋まで呼びに行ってくさったり、病気になった際には心配をされて訪室されようとされている。 毎日の習慣として、お盆拭きや掃除などからの交流により、他者を思いやる言葉をお聞きすることがある。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、地域での関係性は継続していただい、ボランティアを紹介していただいたり、繋がりを持ちながらご相談や支援をさせていただいている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人が何に困っておられるのか、何を不安に思っておられるのかを、会話や言動・行動などを通じて、理解をしたいという思いを忘れずに職員間で声をかけあい、または事業所会議やフロア会議などからも発信し、全職員の共通認識できる面は周知に努めている。	入居時に家族情報を参考に、生活歴や生活習慣を把握している。担当職員が主に日々関りや会話のなかで、要望を把握できるようにしている。何事も本人本位で物事を考え、出来る限り希望に近づけるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴をもとに、今のサービスがご本人様にとって安心の出来るものなのかを念頭に置き、現状からより良いサービスが提供できるように、ご家族様からも情報をいただきながら、把握に努めていっている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活を通じて、体調不良の早期発見や継続しての状況把握など職員間の情報交換も大切にし、申し送りや連絡ノートを通じて職員への周知を図っている。		

自己評価	外部評価	項目( 桜 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>居室担当者を柱として定期的にモニタリングを行い、ご本人様を中心にご家族様からの思いを含め、多職種とも協働しご利用者様が安心してサービスが受けられるような計画の検討を行っている。</p>	<p>担当職員の情報に基づき、ニーズに沿った計画作成をしている。例えば、右肩が痛いとの訴えから、椅子に腰を掛けて洗濯物を干すなど日常生活リハビリが取り入れられるように工夫をしている。利用者が生き生きと暮らせる要素を増やし、本人の能力を活かしたプランとなるよう見直しを重ねている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の生活やケアに関して、生活記録・看護記録に分けて記入し、申し送りを中心に情報の伝達をおこなっている。状況によっては、適時カンファレンスをするため、フロア会議を開催するように、努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ変わるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>ご本人様の思いを柱として、ご家族様にご相談させていただき、他の医療機関や他のサービスを活用しながら、事業所で安心して生活を継続していただけるように、努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域行事への参加を始め、地域ボランティアの来訪などを通じて、地域の方々と触れ合うことにより、適度な緊張感に合わせ「楽しかった」という気持ちが続くように努めているが、コロナにより現状としては実施できていない。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入所前からご利用されていた、かかりつけ医が継続して往診されたり、通院を継続していたりと、ご本人様とご家族様が納得して生活を継続していただけるように、医療機関とも連携を図っている。入所前のかかりつけ医と情報交換を図りながら、適切な医療の提供に努めている。</p>	<p>入居前からのかかりつけ医を継続できるが、殆どの利用者がホームの協力医がかかりつけ医である。月2回訪問診療と週1回訪問看護、緊急時の対応など24時間連携体制が図られ、健康面に関して安心である。希望があれば、眼科、歯科、リハビリやマッサージなど受けられる体制が整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 桜 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>日々の観察を基に、「いつもと違う」変化に気づきあえるよう、申し送りや職員間でのコミュニケーションを図り、変化時には訪問看護との連携を密に図っている。</p> <p>訪問看護師との、報告・連絡・相談を継続して努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された場合には、提携先病院を始め、かかりつけ医からの指示により通院、入院となるため、ご本人様、ご家族様もより安心した医療を受けることができる。</p> <p>加療中にはご家族様や、病院先に出向き状況把握に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>ご契約時に、事業所の方針についてご説明をさせていただき、看取りについての意志を伺っている。</p> <p>定期的に改めて、意志のご確認をさせていただきながら、かかりつけ医や医療機関との連携体制を整え、支援体制にも努めている。</p>	<p>看取りに関する指針があり、入居時に家族への説明を行っている。重度化した場合は改めて医師を交えて話し合い方針を決め、チームで共有し支援する体制がある。看取りを行った後には振り返りを必ず行っている。家族の思いやその人らしく最期を迎えられるよう看取り研修も行っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>事業所内の勉強会を通じ、職員間で意識統一と意識の確認を行っている。</p> <p>外部講習会などにも参加し、実践力を培い新たに事業所に持ち帰り、職員間でも共有にも努めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>定期的に消防署に依頼し、訓練を実施している。水災害の危険がある区域のため、指定避難場所の確認や協力施設の増大を図る。早期の対応ができるように、職員間でも情報収集に努めるとともに、訓練などを通じて、災害時には対応できるように努めている。</p>	<p>定期的な避難訓練を消防署立ち会いで行っており、地域の方も参加できるよう調整を行っている。水害のある危険地域となっており近隣の特別養護老人ホームに災害時の受け入れ協力体制が出来ている。運営推進会議で災害についての話をしており、何かあれば協力しあえる関係作りが行われている。</p>	



自己評価	外部評価	項目( 桜 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	勉強会を通じ、尊厳・プライバシーについての学びを定期的に行っている。また、フロア会議でも不適切なケアになっていないかなども合わせ、話し合いの場を設けている。主任・副主任を柱とし、日々のかかわりの中でも職員間で声を掛け合い、不適切なケアにならない意識づけにも努めている。	定期的な研修を実施している。日々の関りのなかで職員間でもお互いに言葉掛けには十分気をつけるようにしている。例えば、トイレ使用中の際は、ドア付近に使用中の札を掲示したり、トイレや浴室入り口には、暖簾を使用するなど、さりげない気配りや配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人様の発言、行動の観察を日々おこなう中で、変化に気づきご本人様の思いに寄り添いながら、職員間でも情報を共有し、今できる最善のケアでご対応させていただきながら、状況によってはご家族様へのご協力が得られるような支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者様一人ひとりの価値観・生活観を尊重し、ご利用者様同士でもお互いのペースが保てられるように、職員が橋渡しをすることにより、ご利用者様も思いに寄り添い過ごしていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2か月に一度、訪問美容に訪訪していただいている。 ご本人様の思いに寄り添えるように、細かな点まで相談にのっていただいている。 ご本人様に伺いながら、季節に合わせた洋服選びに努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事前にはメニューのご説明をさせていただき、食器などは陶器を使用することにより家庭的な雰囲気を保っている。食後には、お盆拭きや食器洗いご米とぎなども、ご協力いただけるように努めている。	外部業者の献立により調理された食材を利用し、白飯、汁物を事業所で作り提供している。誕生日には、手作りケーキで祝っている。季節を楽しむ行事食も企画しており、調理を手伝って頂くなど、利用者個々の役割が明確になっており、食事を楽しめる支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目( 桜 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b>  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分チェック表にてご本人様の水分量の把握に努めている。 1日1000ccを目安に、ご本人様の嗜好に合わせた水分形態をとりつつも、水分量が安定するように細やかな細かや言葉かけに努めている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b>  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科医師によるチェックを実施していただき、口腔内の汚れやすい箇所等を把握し口腔ケアを実施していたが、コロナにより訪問を自粛している。自立して口腔ケアを行われる方には、言葉かけを行い清潔に保てるように努めている。		
43	16	<b>○排泄の自立支援</b>  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表により、パットでの排泄ではなく、便器での排泄を可能に出来るように、ご本人様のパターンに合わせてトイレへの言葉かけをおこなっている。定期的にフロア職員が適切な排泄パターンとなっているかを検討しながら、より良いケアへと努めている。	利用者の仕草や表情、個々の排泄パターンを把握し、トイレで排泄が出来るよう努めている。ヨーグルト、ヤクルトなど乳酸菌を飲料することで、自然排便を促すための支援を行っている。退院後にトイレ誘導を取り組む中で、尿取りパッドから布パンツに移行した事例もある。	
44		<b>○便秘の予防と対応</b>  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分チェック表にてご本人様の水分量の把握に努めている。 1日1000ccを目安に、ご本人様の嗜好に合わせた水分形態をとりつつも、水分量が安定するように細やかな言葉かけに努めている。 状況に応じて、排泄を促すように薬の活用にも努めている。		
45	17	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b>  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご本人様のご希望に沿えるように言葉かけをさせていただきながら、午前浴を基本とし入浴を週2～3回、ご提供できるように努めている。	週2～3回を午前浴、本人の気分や体調に合わせて柔軟な対応がなされている。希望があれば毎日の入浴も可能である。適宜、足浴や入浴後の保湿にも細かな配慮がなされている。また柚子湯など季節に合わせたお湯の提供も行ったことがある。	

自己評価	外部評価	項目( 桜 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>日々の生活の中で、適度な運動 を促し過度にならない様に、休 息時間も確保し安眠に繋がるよ うに努めている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>事業者内の勉強会で、ご利用 者様の内服薬の把握に努めなが ら、状況変化などがあつた際 には、かかりつけ医・看護師へ 報告し対応に務めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>ご利用者様の生活史から楽し みに合わせて、中庭の土いじり や家事分担などのやりたいこと に、取り組んでいただけるよう な支援に努めている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよ う支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援してい る。</p>	<p>ご本人様の思いを基に、近所 のスーパーへの外出支援、行 事への参加など、ご本人様が 求められる希望に寄り添いな がら、外出支援に努めていき たいと考えているが、コロナ により実施まではできていな い。</p>	<p>年間行事計画予定表を作成し、 定期的に外出しており、昨年 は花見や紅葉狩りなど多くの 場所に出掛けている。日常的 な外出支援がコロナ禍で困難 な現状である中で、職員提案 で花火大会、かき氷、ドライ ブなど行い、好評であった。 家族の協力で外食、外出さ れる方もいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一 人ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。</p>	<p>嗜好品等の購入の為、ご本人 様の思う嗜好品の購入ができ るように、支援をしている。 ご家族様より預り金をさせて いただいております。ご家族 様より預り金をらせていただ いておりますが、コロナによ り外出は自粛しているため、 職員が代行して買い物は行 っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( 桜 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人様からの希望に寄り添い、ご家族様やお知り合いなどに連絡を取る機会もある。 ご本人様から、依頼されると代筆なども支援している。 ご本人様宛のお手紙などは、ご依頼があれば代読などもさせていただいている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関や中庭からなど適度な自然光を取り入れながら、またご家庭で生活をされておられた環境により近づけるように、居室や浴室なども光には配慮している。電車などの音が時折聞こえるが、芸備線地区の方もおられ、親しまれた音を感じることもできている。	共有スペースは全体が見渡せるように配置し、中庭には花や野菜の栽培が行われ利用者が日常的に手入れが出来るように配慮されている。温度や湿度を気かけ、過ごしやすい環境を整えている。毎月、壁には一緒に作成した壁画を飾り季節を感じてもらえるような工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	お一人になりたい際には、ソファやお気に入りの椅子などに腰掛けられるような、空間づくりを行っている。お食事の席が、決まっていることとお一人お一人のスペースを確保することにより、顔馴染みの方との会話も楽しめるようにと努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者様が思いをもたれていた家具や仏壇などを居室に置かせていただく事で、ご自分の安全で安心していただけるスペースとして、過ごしていただき、ご本人様への生活史に寄り添うように努めている。	利用者が折った折り鶴を活用し、居室入口に個人の干支を飾っている。居心地良く生活して頂くために、仏壇や写真など、室内への持ち込みは基本的には自由となっている。入居時はベッドのみの設置であり、慣れ親しんだ家具や今まで使っていた馴染みの物を設置しやすいよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご利用者様一人ひとりの身体状況を把握し、動線には危険なものは置かない様にするが、殺風景にならない様に適度な物の配置をしている。 ご利用者様の状況により、事業者会議やフロア会議などで配置も検討しながら、より良い環境づくりに努めている。		

V アウトカム項目( 桜 ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目( 楓 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝礼で理念の唱和することで、動機付けを行っている。また、事業所会議を通じて理念についての自己への振り返りを図るとともに、事業所全体の意識づけへとつなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ご利用者様との散歩の際や、洗濯物干しなどで地域の方々とお会いさせていただく際には、職員より積極的にご挨拶させていただいている。コロナウイルスにより、地域への参加は難しい状況が続いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所内で開催する行事に、地域の方々にご参加いただき、ご利用者様と触れ合うことで認知症への理解を図っていきたいと考えているが、コロナにより現状として実施できていない。また、日頃の挨拶なども通じて、ご利用者様と触れ合っていたく事で、自然に認知症への理解へとつながっていると考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に2か月に1回、運営推進会議を開催しているが、コロナにより施設などの会議には、至っておらず。文章での会議となり、事業所での取組みや外部から事業所への課題についてもお話をいただけ、事業所会議等で職員にも周知している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターや居宅支援センターの方々と日頃からコミュニケーションを図り、ご利用者様や新規ご利用者様への働きかけなどをご相談させていただいている。また、介護サービスへの疑問や不明への確認や、報告をさせていただいている。		

自己評価	外部評価	項目( 楓 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内の勉強会を通じ、定期的に身体拘束について職員間で意識統一と意識付けを行っている。日頃の業務中に不適切なケアになっていないかなど、フロアの主任が中心となりフロア会議などを通じて、振り返りを図っている。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内の勉強会を通じ、定期的に虐待の防止について職員間で意識統一と意識付けを行っている。日頃の業務中に不適切なケアになっていないかなど、主任・副主任が中心となり振り返り、管理者は職員の思いにも寄り添えるように、日頃からコミュニケーションを図り、個別面談をおこない体制づくりに努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	各研修への参加などをこれからも行っていくとともに、必要に応じて各関係者とも連携を図り、ご利用者様やご家族様などからもご質問や疑問の相談に応じられるように努めている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書を基にご説明等を行い、ご不明な点や疑問にも、気軽にご相談いただける様に、分かりやすい言葉を選び、環境づくりを行っている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者様からは、日々の生活の中からお話がいただけるように、言葉かけをさせていただき、ご家族様には、ご面会時の言葉かけや家族会へのご参加時に思いをいただいている。いただいた内容は、職員間で共有しご希望や要望に対して、対応できる範囲はどこまでかを話し合い対応している。		



自己評価	外部評価	項目( 楓 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	事業所会議やフロア会議、日々の言葉かけを通じて、意見や思いを受け入れられる体制づくりを行っている。 主任・副主任へ相談し、管理者へ相談があがることもある。不安を抱える職員に対しては適宜面談を行い、全職員に対しては、年に1回は面談日を設定、働きやすい環境づくりに努めている。		
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者や主任・副主任、職員から職員個々の努力や実績の報告などを聴き、また自己評価などとすり合わせながら、日々の業務の中での職員状況を把握し、日々のコミュニケーションや個別面談を通じて、働きやすい環境づくりが整うよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所外部への研修を職員個々の状況に合わせ受講し、スキルアップにつなげている。研修の情報を回覧などで活用して職員個々でも参加できる研修への働きかけを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	各研修や勉強会への参加をすることにより、事業所外からの学びを基に、事業所会議やフロア会議などで職員間で共有し、サービスへの活用を図り、より質が高められるように努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメントシートをご本人様よりいただくお話をもとに整理しながら、またご本人様からの思いを引出し、要望や不安を解決でき不安なく生活していただけるように、務めている。		

自己評価	外部評価	項目( 楓 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様には、ご利用を開始する前に事業所の見学をしていただき日々の様子を感じていただき、施設見学の後には、ご相談を受け現時点での不安やお困りごとなどを伺っている。サービスを開始する際には、改めてのご要望や不安などをお伺いし、より安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族様には、ご利用を開始する前に施設見学をしていただいた後にお話を聴く場を設けることにより、現時点での支援について把握します。サービス開始時点では改めてご要望や不安などをお伺いし、より安心していただけるようなサービス内容になるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活の中で、ご本人様が出来る事をお話し、協力しながら共助を築いていけるように努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご面会時や、月一度の近況報告によりご本人様がここでの生活を安心して穏やかに過ごしていただけるように、ご家族様にも協力をいただき、支援していけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所前に通っておられた場所へ外出されたり、地域の馴染みの場所への参加を継続していけるように努めていきたいが、コロナにより積極的にはできていないのが現状となっている。		

自己評価	外部評価	項目( 楓 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	顔馴染みの方々が外出の際にお部屋まで呼びに行ってくださいたり、病気になった際には心配をされて訪室されようとされたりされます。 毎日の習慣として、お盆拭きや掃除、立ち上がり訓練などからの交流により、他者を思いやる言葉をお聞きすることがあります。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、地域での関係性は継続していただだけ、ボランティアを紹介していただいたりと、繋がりを持ちながらご相談や支援をさせていただいております。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人が何に困っておられるのか、何を不安に思っておられるのかを、会話や言動・行動などを通じて、理解をしたいという思いを忘れずに職員間で声をかけあい、または事業所会議やフロア会議などからも発信し、全職員の共通認識できる面は周知に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴をもとに、今のサービスがご本人様にとって安心の出来るものなのかを念頭に置き、現状からより良いサービスが提供できるように、ご家族様からも情報をいただきながら、把握に努めていっている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活を通じて、体調不良の早期発見や継続しての状況把握など職員間の情報交換も大切にし、申し送りや連絡ノートを通じて職員への周知を図っている。		

自己評価	外部評価	項目( 楓 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>居室担当者を柱として定期的にモニタリングを行い、ご本人様を中心にご家族様からの思いを含め、多職種とも協働しご利用者様が安心してサービスが受けられるような計画の検討を行っている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の生活やケアに関して、生活記録・看護記録に分けて記入し、申し送りを中心に情報の伝達をおこなっている。状況によっては、適時カンファレンスをするため、フロア会議を開催するように、努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>ご本人様の思いを柱として、ご家族様にご相談させていただき、他の医療機関や他のサービスを活用しながら、事業所で安心して生活を継続していただけるように、努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域行事への参加を始め、地域ボランティアの来訪などを通じて、地域の方々と触れ合うことにより、適度な緊張感に合わせ「楽しかった」という気持ちが継続的に持てるように努めたいが、コロナにより現状としては実施できていない。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入所前からご利用されていた、かかりつけ医が継続して往診されたり、通院を継続していたりと、ご本人様とご家族様が納得して生活を継続していただけるように、医療機関とも連携を図っている。入所前のかかりつけ医と情報交換を図りながら、適切な医療の提供に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( 楓 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の観察を基に、「いつもと違う」変化に気づきあえるよう、申し送りや職員間でのコミュニケーションを図り、変化時には訪問看護との連携を密に図っている。 訪問看護師との、報告・連絡・相談を継続して努めている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には、提携先病院を始め、かかりつけ医からの指示により通院、入院となるため、ご本人様、ご家族様もより安心した医療を受けることができる。 加療中にはご家族様や、病院先に出向き状況把握に努めている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご契約時に、事業所の方針についてご説明をさせていただき、看取りについての意志を伺っている。 定期的に改めて、意志のご確認をさせていただきながら、かかりつけ医や医療機関との連携体制を整え、支援体制にも努めている。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所内の勉強会を通じ、職員間で意識統一と意識の確認を行っている。 外部講習会などにも参加し、実践力を培い新たに事業所に持ち帰り、職員間でも共有にも努めている。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に消防署に依頼し、訓練を実施している。 水災害の危険がある区域のため、指定避難場所の確認や協力施設の増大を図る。 早期の対応ができるように、職員間でも次情報収集に努めるとともに、訓練などを通じて、災害時には対応できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 楓 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	勉強会を通じ、尊厳・プライバシーについての学びを定期的に行っている。また、フロア会議でも不適切なケアになっていないかなども合わせ、話し合いの場を設けている。 主任・副主任を柱とし、日々のかかわりの中でも職員間で声を掛け合い、不適切なケアにならない意識づけにも努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人様の発言、行動の観察を日々おこなう中で、変化に気づきご本人様の思いに寄り添いながら、職員間でも情報を共有し、今できる最善のケアでご対応させていただきながら、状況によってはご家族様へのご協力が得られるような支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者様一人ひとりの価値観・生活観を尊重し、ご利用者様同士でもお互いのペースが保てられるように、職員が橋渡しをすることにより、ご利用者様も思いに寄り添い過ごしていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2か月に一度、訪問美容に来院していただいている。 ご本人様の思いに寄り添えるように、細かな点まで相談にのっていただいている。 ご本人様に伺いながら、季節に合わせた洋服選びに努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事前にはメニューのご説明をさせていただき、食器などは陶器を使用することにより家庭的な雰囲気を保っている。 食後には、お盆拭きや食器洗いご米とぎなども、ご協力いただけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 楓 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分チェック表にてご本人様の水分量の把握に努めている。</p> <p>1日1000ccを目安に、ご本人様の嗜好に合わせた水分形態をとりつつも、水分量が安定するように細やかな細かや言葉かけに努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>訪問歯科医師によるチェックを実施していただき、口腔内の汚れやすい箇所等を把握し口腔ケアを実施していたが、コロナにより訪問を自粛している。</p> <p>自立して口腔ケアを行われる方には、言葉かけを行い清潔に保てるように努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表により、パットでの排泄ではなく、便器での排泄を可能に出来るように、ご本人様のパターンに合わせてトイレへの言葉かけをおこなっている。定期的にフロア職員が適切な排泄パターンとなっているかを検討しながら、より良いケアへと努めている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>水分チェック表にてご本人様の水分量の把握に努めている。</p> <p>1日1000ccを目安に、ご本人様の嗜好に合わせた水分形態をとりつつも、水分量が安定するように細やかな言葉かけに努めている。</p> <p>状況に応じて、排泄を促すように薬の活用にも努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>ご本人様のご希望に沿えるように言葉かけをさせていただきながら、午前浴を基本とし入浴を週2～3回、ご提供できるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( 楓 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>日々の生活の中で、適度な運動 を促し過度にならない様に、休 息時間も確保し安眠に繋がるよ うに努めている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>事業者内の勉強会で、ご利用 者様の内服薬の把握に努めなが ら、状況変化などがあつた際 には、かかりつけ医・看護師へ 報告し対応に務めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>ご利用者様の生活史から楽し みに合わせて、中庭の土いじり や家事分担などのやりたいこと に、取り組んでいただけるよう な支援に努めている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよ う支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援してい る。</p>	<p>ご本人様の思いを基に、近所 のスーパーへの外出支援、行 事への参加など、ご本人様が 求められる希望に寄り添いな がら、外出支援に努めていき たいと考えているが、コロナ により実施まではできておら ず。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。</p>	<p>嗜好品等の購入の為、ご本人 様の思う嗜好品の購入ができ るように、支援をしている。 ご家族様より預り金をさせて いただいておりますが、コロナ により外出は自粛しているた め、職員が代行して買い物は 行っている。</p>		



自己評価	外部評価	項目( 楓 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人様からの希望に寄り添い、ご家族様やお知り合いなどに連絡を取る機会もある。 ご本人様から、依頼されると代筆なども支援している。 ご本人様宛のお手紙などは、ご依頼があれば代読などもさせていただいている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関や中庭からなど適度な自然光を取り入れながら、またご家庭で生活をされておられた環境により近づけるように、居室や浴室なども光には配慮している。電車などの音が時折聞こえるが、芸備線地区の方もおられ、親しまれた音を感じることもできている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	お一人になりたい際には、ソファやお気に入りの椅子などに腰掛けられるような、空間づくりを行っている。お食事の席が、決まっていることでお一人お一人のスペースを確保することにより、顔馴染みの方との会話も楽しめるようにと努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者様が思いをもたれていた家具や仏壇などを居室に置かせていただく事で、ご自分の安全で安心していただけるスペースとして、過ごしていただき、ベッドが苦手な方には、畳に布団を敷き、生活をしていただいたり、ご本人様への生活史に寄り添うように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご利用者様一人ひとりの身体状況を把握し、動線には危険なものは置かない様にするが、殺風景にならない様に適度な物の配置をしている。 ご利用者様の状況により、事業者会議やフロア会議などで配置も検討しながら、より良い環境づくりに努めている。		

V アウトカム項目( 楓 ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム樹

作成日 令和3年1月29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1 3 ・ 1 4	職員の自己覚知に繋がる研修への参加が出来ていない。	研修(オンラインを含む)に参加をする。	職員の能力、経験等により、適切な研修に参加して頂き、自己覚知をはかる。	1年以内
2	2	地域との関わりを深めていきたい。	地域貢献を行う。	事業所行事へのお誘い地域業への参加をできる範囲で行っていく。	1年以内
3	3	家族会の継続。	より多くのご家族様にご参加していただく。	家族会の内容を検討する。 (ご家族さまの興味のある事などを聞き取り集計する)	1年以内
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。